

授業科目	組織・発生学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 9月～10月			
			① 平島寛司	時間数	15					
目的と目標	人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。 1 細胞及び組織の定義について理解する 2 顔面、口腔内組織の発生について理解する 3 歯及び歯周組織の構造と機能について理解する									
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員				
1	細胞と組織	(1)細胞			講義	外部講師 (平島寛司)				
	発生	(2)組織 (1)染色体と減数分裂 (2)精子と卵子の発生 (3)受精と着床 (4)胚葉の形成 (5)胎児の成長と発育								
2	顔面と口腔の発生	(1)鰓弓の形成 (2)顔面と口唇の形成 (3)口蓋と鼻腔の形成 (4)舌の形成 (5)腺の形成								
3	歯と歯周組織の発生	(1)先行歯の発生			試験					
4		(2)代生歯および加生歯の発生 (3)歯の萌出・歯の脱落と交換 (4)歯の萌出の臨床的考察								
5	歯および歯周組織の構造と機能	(1)エナメル質								
～		(2)象牙質・歯髄複合体								
7		(3)セメント質 (4)歯根膜・歯槽骨・歯肉 (5)歯周組織の生理 (6)口腔粘膜								
8	試験（1時間）	(1)筆記試験								
評価方法	筆記試験									
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）									
事前準備や 受講要件等										
☆担当職員の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。									

科目 授業 目	生 理 学	教 担 員 当	外部講師 小畑 孝二	単位数	2	時期	1年次 6月～9月			
				時間数	30					
目的と目標	<p>ヒトの身体はさまざまな器官や組織から構成されているが、それらがどのような働きをしているのか、また、その働きの仕組みはどのようになっているのかを学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 循環器系、呼吸器系の構造と機能の理解をする 2 感覚器の基本的性質、構造及び機能を理解する 3 排泄機能、体温調節について理解する 4 内分泌器の基本構造とホルモンを理解する 5 生殖器系について理解する 									
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員				
1 ～ 3	循環	(1) 脈管系の概要、血管の構造と機能 (2) 血液、心臓、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系			講義	外部講師 (小畑孝二)				
4 ～ 6	呼吸	(1)概説、構成、胸郭の構造と換気の仕組み (2)肺気量と換気量 (3)肺胞および組織におけるガス交換 (4)血液中の O ₂ と CO ₂ の運搬、呼吸の調節								
7 ～ 8	感覚	(1)感覚の基本的性質 (2)体性・内臓感覚、外皮 (3)特殊感覚器の構造と機能								
9	排泄	(1)概説、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿								
10 ～ 11	体温	(1)体熱の産生、放散 (2)体温の調節、変動								
12 ～ 13	内分泌	(1)内分泌器官とホルモン (2)内分泌器官の構造と機能 (3)その他のホルモン、歯とホルモン								
14	生殖	(1)生殖器、性周期、受精と妊娠 (2)分娩と乳汁分泌、更年期								
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)生理学のまとめ (2)筆記試験						試験		
評価方法		筆記試験								
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）								
事前準備や受講要件										
☆担当職員の 実務経験										

授業科目	栄 養 学 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 6月～10月
			①前田ほのお	時間数	30		
目的と目標	<p>栄養と健康維持との関係を知るために、栄養素の種類や働きその他、消化・吸収、食事摂取基準など五大栄養素の栄養学的意義について理解する。また、栄養の知識や栄養素の相互作用、相互の影響について理解し栄養の基礎的知識を理解する。</p> <p>1 健康の維持と増進に必要な栄養について理解する 2 食事摂取基準とエネルギー必要量について理解する 3 五大栄養素の種類と働きについて理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	栄養の基礎知識	(1)食生活と栄養 (2)栄養素の消化・吸収			講義	外部講師 (前田ほのお)	
3 ～ 8	食事摂取基準	(1)食事摂取基準について (2)エネルギー必要量 (3)脂肪エネルギー比率 (4)基礎代謝 (5)日本人の食事摂取基準					
9 ～ 14	栄養素の働き	(1)糖質の栄養的意味 (2)タンパク質の栄養的意味 (3)脂質の栄養的意味 (4)ビタミンの栄養的意味 (5)ミネラルの栄養的意味 (6)水の栄養的意味 (7)食物繊維の栄養的意味			試験		
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)栄養学Iのまとめ (2)筆記試験					
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学 （医歯薬出版） 日本食品成分表 2026 八訂 （医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①管理栄養士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	栄 養 学 II	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1 年次 10 月～12 月
			①岩崎文江	時間数	30		
目的と目標	<p>ヒトの健康を支える基本である食生活について学び、食品と深い関わりをもつ齶蝕と歯周疾患との関連性や食生活上の改善を必要とする対象者に対し、系統的かつ科学的な指導を行うための知識を養うことを目標とする。</p> <p>1 現代人の食物摂取における栄養上の問題点について理解する</p> <p>2 ライフステージ別の食生活の特徴について理解する</p> <p>3 食生活と健康との関連について理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 4	食生活と健康	(1)国民の健康と栄養の現状 (2)食生活の変遷と疾病構造の変化 (3)国民栄養の現状と課題 (4)国民健康・栄養調査 (5)食育と食育基本法			講義	外部講師 (岩崎文江)	
5 ～ 8	望ましい食生活	(1)国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み (2)食事環境 (3)食事計画					
9 ～ 10	ライフステージ別の栄養と調理	(1)成長期における栄養と調理の特性 (2)成人期における栄養と調理の特性 (3)高齢期における栄養と調理の特性			試験		
11 ～ 14	食べ物と健康	(1)食品の成分と分類 (2)食品成分表 (3)食事計画に用いる食品分類 (4)食べ物の物性 (5)食べ物のおいしさ (6)食べ物の物性・テクスチャー (7)日本人の食事摂取基準					
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)栄養学IIのまとめ (2)筆記試験					
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学 (医歯薬出版) 日本食品成分表 2026 八訂 (医歯薬出版)					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験		①管理栄養士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	口腔解剖学	担当教員	外部講師☆	単位数	2	時期	1年次 9月～11月
			① 平島 寛司	時間数	30		
目的と目標	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。 1 口腔付近を構成する骨、筋について理解する 2 口腔付近に走行する脈管、神経について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4 5 ～ 7 8 ～ 10 11 12 13 14 15	口腔付近の解剖学	(1)口腔とは (2)口腔を構成する骨 (3)頭頸部の筋と作用 (4)顎関節 (5)口腔付近に分布する脈管系 (6)神経			講義	外部講師 (平島寛司)	
	まとめ (1時間) 試験 (1時間)	(1)口腔解剖学のまとめ (2)筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	口腔生理学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 9月～10月
			① 平島 寛司	時間数	15		
目的と目標	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。 1 歯と口腔粘膜の感覚を理解する 2 咀嚼・嚥下及び発声の機序を理解する 3 唾液腺の位置と構造について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	歯と口腔の感覚	(1)歯・口腔粘膜の感覚				外部講師 (平島寛司)	
2	味覚と嗅覚	(1)味覚、嗅覚					
3	咬合と咀嚼・吸啜	(1)下顎位、下顎の運動、顎反射 (2)摂食行動、咀嚼能力、吸啜					
4	嚥下と嘔吐	(1)嚥下と嘔吐にかかわる構造 (2)嚥下、嘔吐					
5	発声	(1)発声機構の概要、声の生成、言語音の形成 (2)歯・口腔の病態と発音					
6	唾液	(1)唾液線					
7		(2)唾液の分泌機構、性状・成分と機能 (3)唾液と疾患					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験					
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	生 化 学	担当教員	外部講師	単位数	2	時 期	1 年次 5 月～7 月
			香田 昌宏	時間数	30		
目的と目標	生体の構造と機能を分子レベルで理解し、口腔内組織及び疾患に関する基礎知識を習得する。 1 生体の構成成分と栄養素の種類及び作用を理解する 2 エネルギー代謝について理解する 3 結合組織の組成と機能を理解する 4 歯と骨の石灰化の仕組みについて理解する 5 唾液中の無機質と有機質の種類・機能を理解する 6 口腔疾患におけるプラークの関わりを理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 6	生命活動の概要	(1)生体の構成要素 (2)生体における化学反応 (3)糖質と脂質の代謝 (4)タンパク質とアミノ酸の代謝 (5)生体における恒常性の維持 (6)酵素の種類と作用 (7)エネルギー代謝			講義	外部講師 (香田昌宏)	
7 ～ 12	歯・口の生化学	(1)歯と歯周組織の生化学 歯と歯周組織、結合組織 (2)硬組織の生化学 血清中のカルシウムとリン酸 石灰化のしくみ 骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化 (3)唾液の生化学 唾液の組成と機能 (4)プラークの生化学 プラークの生物活性 プラークによるう蝕発症機構、口臭 発症機構、歯周疾患発症機構					
13	復習	(1)復習					
14							
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)生化学のまとめ (2)筆記試験					
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験							

授業科目	病 理 学	担当教員	外部講師☆	単位数	2	時 期	1 年次 9 月～11 月
			①杉田好彦 ②河合遼子	時間数	30		
目的と目標	<p>口腔領域に発生する疾病の発生機序及び病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。</p> <p>1 病理概説：病気というものについての基本的事項を総論的に学習し、種々の臓器や組織に現れる同じ種類の病変を総括し、その一般的概念について理解する</p> <p>2 口腔病理：口腔領域のいろいろな組織や臓器に発生した病変について学習する 特に歯と歯周組織の病変について詳しく理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 6	病理学総論	(1)病理学序論と病因論 (2)遺伝性疾患と奇形 (3)循環障害 (4)代謝障害と退行性病変 (5)増殖と修復 (6)炎症と免疫応答異常 (7)腫瘍			講義	外部講師 (杉田好彦)	
7 8 9 ～ 14	口腔病理学	(1)歯の発育異常 (2)歯の損傷と着色・付着物 (3)う蝕 (4)象牙質・歯髄複合体の病変 (5)歯周組織の病態 (6)口腔粘膜の病変 (7)口腔領域の嚢胞と腫瘍 (8)口腔癌 (9)顎骨の病変 (10)唾液腺の病変 (11)口腔領域の奇形 (12)口腔組織の加齢変化					外部講師 (河合遼子)
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)病理学のまとめ (2)筆記試験				試験	
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①②歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	薬理学 I	担当教員	外部講師	単位数	1	時期	1年次 10月～12月
			鷺野 嘉映	時間数	30		
目的と目標	<p>薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。</p> <p>1 薬理作用の基本形式、分類及び副作用について理解する</p> <p>2 薬物・医薬品の取扱い、管理について理解する</p> <p>3 全身疾患に使用する薬剤の薬理作用、作用機序、副作用を理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 2 3 4 5 ～ 8 9 10 ～ 11	総論 各論	(1)薬物の作用、薬物動態 (2)薬物の適用方法の種類と特徴 (3)薬物の作用に影響を与える要因 (4)薬物の副作用、有害作用 (5)医薬品を適用する際の注意 (6)薬物の取り扱い (7)薬物の法律・薬物と医歯品 (1)ビタミンとホルモン (2)神経系に作用する薬物 (3)循環器系に作用する薬物 (4)腎臓に作用する薬物 (5)呼吸器系・消化器系に作用する薬物 (6)血液に作用する薬物 (7)免疫と薬 (8)悪性腫瘍と薬 (9)代謝性疾患治療薬 (10)炎症と薬物、痛みと薬物 (11)消毒に使用する薬 (12)抗感染症薬 (13)和漢薬			講義	外部講師 (鷺野嘉映)	
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)薬理学のまとめ (2)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験							

授業科目	薬理学Ⅱ	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 11月～12月
			①小竹 典子	時間数	15		
目的と目標	<p>全身疾患およびその治療薬と、歯科で投薬される薬物との相互作用を理解する。 また、歯科治療に使用される薬物を知るとともに、薬物管理、製剤の扱い、服薬指導等についての理解を深める。</p> <p>1 歯科予防・歯科治療に用いる薬物の薬理作用、作用機序、副作用を理解する 2 対象者別の服薬指導について理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	各論	(1)医薬品を適用する際の注意			講義	外部講師 (小竹典子)	
2		(2)局所麻酔薬					
3		(3)う蝕予防薬					
4		(4)歯内療法薬					
5		(5)歯周疾患治療薬					
6		(6)顎・口腔粘膜疾患と薬					
7							
8	試験（1時間）	(1)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	微生物学 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 4月～6月
			①札幌 康之	時間数	30		
目的と目標	<p>感染症の病原菌の性状や発症のメカニズム、疾病の原因としての病原性病気を起こす側（生体）の防御能について理解を深める。また、疾病の原因としての病原性細菌、ウイルスについて理解する。</p> <p>1 微生物の感染機構と病原性、宿主の抵抗性について理解する</p> <p>2 細菌、ウイルスその他微生物の形態学的特徴と基本的性状を理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 4	微生物学	(1)微生物学の概要 (2)感染 (3)微生物学総論 (4)微生物の培養、観察と検査 (5)化学療法 (6)消毒と滅菌			講義	外部講師 (札幌康之)	
5 ～ 9	病原微生物学	(1)主な病原細菌 (2)歯科に関連するウイルスとウイルス感染症 (3)歯科に関連する真菌 (4)口腔領域の原虫 (5)プリオン					
10 ～ 14	免疫学	(1)免疫 (2)アレルギー (3)免疫に関連する疾患					
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)微生物学 I のまとめ (2)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	微生物学Ⅱ	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 11月～12月
			①中寫 誠治	時間数	15		
目的と目標	<p>細菌、真菌、ウイルスなどの微生物、およびそれらによって引き起こされる歯科領域の疾患について理解を深める。また、培養と観察を実際に行い、細菌、ウイルスその他微生物の形態学的特徴と基本的性状を理解する。</p> <p>1 微生物と口腔環境の関わりについて理解する</p> <p>2 口腔細菌の観察をし、形態学的特徴と基本的性状を理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4	口腔微生物学	<p>(1)口腔環境と常在微生物</p> <p>(2)バイオフィルムとしてのプラーク</p> <p>(1)う蝕の細菌学</p> <p>(2)歯周病の細菌学</p> <p>(3)その他の口腔感染症</p>			講義	外部講師 (中寫誠治)	
5 ～ 7	顕微鏡観察法 (実習)	<p>(1)プラークの染色、観察</p> <p>(2)口腔細菌・手指細菌の分類・培養</p> <p>(3)口腔細菌・手指細菌の観察</p>			実習		
8	試験 (1時間)	(1)筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	口腔衛生学 I	担当教員	外部講師	単位数	1	時期	1 年次 4 月～5 月
			東 哲司 米永 崇利	時間数	15		
目的と目標	<p>歯・口腔の健康の保持増進について基礎的知識を理解する。また、口腔の構造や機能、さらには歯周疾患、その他の歯科疾患の疫学的特性を理解する。</p> <p>1 口腔の健康及び口腔と全身の健康の関係について理解する</p> <p>2 歯周疾患の予防について理解する</p> <p>3 その他の歯科疾患の予防について理解する</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	保健生態学 総論 歯・口腔の健康 総論	健康の定義と予防医学の概念 (1) 歯・口腔の健康と疾病予防の概念 (2) 口腔の構造や機能、成長発育			講義	外部講師 (東 哲司)	
3 ～ 7	歯周疾患の予防 その他の疾患・異常の予防	(1)歯周疾患の症状・分類・発生機序 (2)歯周疾患の全身に与える影響 (3)歯周疾患の予防手段と処置 (1)軟組織 (2)硬組織				外部講師 (米永崇利)	
8	試験 (1 時間)	(1)筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験 (東講師 30 点分、米永講師 70 点分)						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験							

授業科目	口腔衛生学Ⅱ	担当教員	外部講師 東 哲司	単位数	1	時期	1年次 5月～9月
				時間数	30		
目的と目標	歯・口腔の健康の保持増進について基礎を学習し、個人対象の口腔衛生や公衆衛生の場で活躍できる能力を身につけ、さらに、地域歯科保健活動を実践していくための基本的事項を学ぶ。 1 口腔清掃方法について理解する 2 歯科疾患の疫学的特性について理解する 3 フッ化物のう蝕予防メカニズムを理解する 4 地域歯科保健活動及びライフステージごとの口腔保健活動について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	保健生態学 総論	健康の定義と予防医学の概念			講義	外部講師 (東 哲司)	
2	歯・口腔の健康 総論	(1) 歯・口腔の健康と疾病予防の概念					
～		(2) 口腔の構造や機能、成長発育					
4		(3) 歯・口腔の付着物と沈着物					
5	口腔清掃	(1) 口腔清掃法の分類と用具 (2) 歯磨剤と洗口剤					
6	歯科疾患の疫学	(1) 疫学概論と歯科疾患の疫学的特性					
7	う蝕の予防	(1) う蝕発生のメカニズムと要因 (2) う蝕活動性とう蝕予防法					
8	フッ化物によるう蝕の予防	(1) フッ化物の特性 (2) フッ化物応用法					
9	ライフステージごとの 口腔保健管理	(1) 口腔保健管理の目標					
～		(2) 各ステージの口腔保健					
10							
11	地域保健 総論	(1) 地域社会と地域保健の概念 (2) 地域保健の組織と活動 (3) 健康づくりと地域歯科保健					
12	母子保健	(1) 母子保健・小児保健と母子歯科保健					
～	学校保健	(1) 学校保健総論と学校歯科保健					
14	成人保健	(1) 生活習慣病と成人保健対策 (2) 成人期の歯科保健					
	国際保健	(1) 国際的な歯科医療問題と国際協力					
15	まとめ (1時間) 試験 (1時間)	(1) 口腔衛生学のまとめ (2) 筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 (医歯薬出版)					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験							

科目 授業	衛生統計	教員 担当	外部講師	単位数	2	時期	2年次 5月～7月
			橋本 周子	時間数	30		
目的 と	個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。 1 調査方法・研究方法の種類を学習し、情報の分析手順について理解する 2 歯科疾患の指数について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	保健情報と保健統計 保健情報と疫学 歯科疾患の指数 保健情報の分析手順 保健統計の方法 保健情報の分析演習 情報の保護と倫理 まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)保健情報とは (2)保健統計とは (3)保健情報の種類 (4)国家統計調査 (1)疫学総論－保健情報から疫学分析へ－ (2)健康障害の発生要因 (3)疫学の方法論 (1)数量化と指数 (2)う蝕の指数 (3)歯周疾患の指数 (4)口腔清掃状態の指数 (5)不正咬合と歯列不正の指数 (6)歯のフッ素症指数 (7)その他の歯科保健指標 (1)保健情報の収集 (2)調査 (3)母集団と標本抽出 (1)データの特長 (2)記述統計－代表値、散布度、相関－ (3)推定と信頼区間 (4)検定 (5)保健情報の多変量解析 (1)解析と検定の演習 (2)プレゼンテーション：データの表現 (1)情報社会の特性と問題点 (2)情報の開示 (3)個人情報保護 (4)インターネットと情報倫理(情報モラル) (1)衛生統計のまとめ (2)筆記試験			講義 または 演習	外部講師 (橋本周子)	
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 (医歯薬出版)					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験							

授業科目	衛生学・公衆衛生学 I	担当教員	外部講師 渡邊 昇	単位数	1	時期	2年次 10月～12月
				時間数	15		
目的と目標	歯科保健医療活動や公衆歯科衛生活動を進めていくための基本的な事項を学ぶ。 1 人間と環境、健康と環境の関係について理解する 2 地球環境の変化とその対応について理解する 3 公害問題とその原因について理解する 4 感染の概念を学習し、主な感染症の動向について理解する 5 産業保健の概念について学習し、産業保健活動について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	環境	(1)環境の概念			講義	外部講師 (渡邊昇)	
2		(2)住居・衣服と健康、地球環境と健康					
3		(3)公害と健康への影響 (4)廃棄物処理					
4	健康と食品と水	(1)食品保健 (2)空気・水と健康、放射線と健康			演習		
5	疫学と感染症	(1)疫学の定義および概要、疫学の研究方法 (2)臨床疫学 (3)感染症の成り立ち、予防 (4)主な感染症の動向					
6	産業保健	(1)産業保健の概念、職業性疾病 (2)産業保健管理、産業保健活動					
7	リスク管理 PBL 学習	(1)リスク管理 (1)過去の事例をもとに演習			試験		
8	試験 (1時間)	(1)筆記試験					
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験							

授業科目	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	担当教員	外部講師 鷺野 嘉映	単位数	1	時期	2年次 11月～12月		
				時間数	15				
目的と目標	歯科保健医療活動や公衆歯科衛生活動を進めていくための国の動向や現状を学ぶ。 1 我が国の人口の動向について理解する 2 地域保険を担う組織の仕組みと特徴について理解する 3 母子保健、学校保健、成人保健の意義と特徴について理解する								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2	人口	(1)人口の動向 (2)人口動態統計、生命表			講義	外部講師 (鷺野嘉映)			
3 4	地域保健・公衆衛生 母子保健	(1)地域保健の組織、新たな概念 (2)地域保健活動の進め方 (3)健康日本21と健康増進法							
5 ～	国際保健	(1)各目的および概要							
7	学校保健	(1)学校保健の意義および概要、活動、組織							
	成人保健	(1)成人保健の意義と特徴、現状、対策							
8	試験（1時間）	(1)筆記試験						試験	
評価方法	筆記試験								
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版） 国民衛生の動向（財団法人 厚生統計協会）								
事前準備や 受講要件等									
☆担当職員の 実務経験									

授業科目	衛生行政・社会福祉	担当教員	外部講師	単位数	1	時期	3年次 4月～6月
			鷺野 嘉映 山邨 俊英	時間数	30		
目的と目標	衛生行政・社会福祉に関する全般的な知識と法令制度について理解できる。 1 歯科衛生士として必要な歯科医療保健関係法規が理解できる 2 歯科衛生士として質の高い患者サービスを提供していくために、法的な根拠に基づいた考え方と解法を養う						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 6	社会保障	(1)社会保障、社会保険 (2)医療保険 (3)介護保険 (4)年金保険 (5)雇用保険と労働者災害補償保険 (6)社会福祉			講義	外部講師 (鷺野嘉映)	
7 8	医療の動向	(1)医療状況の動向					
9 10	法とは	(1)法の存在意義 (2)法規の種類 (3)衛生法規と衛生行政との関わり			試験	外部講師 (山邨俊英)	
11 12	歯科衛生士と法律	(1)歯科衛生士法 (2)歯科医師法 (3)歯科技工士法 (4)医療法					
13 14	その他の関係法規	(1)医事法規、薬事衛生法規、保健衛生法規、 予防衛生法規					
15	まとめ（1時間）	(1)衛生行政・社会福祉のまとめ					
	試験（1時間）	(2)筆記試験					
評価方法		筆記試験（鷺野講師 50 点、山邨講師 50 点）					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版） 国民衛生の動向（財団法人 厚生統計協会）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験							